

## 基本目標5 | 家庭・地域との連携・協働の推進

### 目指す姿 //

学校と家庭、地域が連携・協働することで、社会に開かれた教育課程の実現を目指します。コミュニティ・スクールの活性化や子どもの居場所づくりを進めていくことに加え、学校図書館の地域開放等の新たな取組に向けたチャレンジを積み重ねていくことで、「家庭・地域とともにある学校づくり」につなげていきます。

### 基本目標に対する指標 //

	指標名	基準値	目標値
主要指標	アンケートで「学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる環境が整っている」と回答した保護者の割合	83.6%	85%
参考指標	学校運営協議会の取組は、社会に開かれた教育課程に「つながった」と回答した学校数	小：13校 中：6校 高：0校	小：42校 中：21校 高：1校
	学校運営協議会での話し合いから3種類以上の地域学校協働活動につながった学校運営協議会数	21 協議会	35 協議会 (全協議会)
	こどもルーム <sup>77</sup> の待機児童数	147人	0人
	夏休み子ども教室の参加児童の満足度	92%	90%以上
	大規模災害時等に引渡し可能な体制を構築している小中学校数	40校	63校

## 施策16 コミュニティ・スクールの活性化

### 現状と課題 //

柏市では、学校運営協議会を各校に設置し、令和5年度には市立全小中学校が、また、令和7年度には市立柏高等学校がコミュニティ・スクールとなりました。学校運営協議会での話し合いを通じて、地域学校協働活動<sup>78</sup>を展開しています(p.85参照)。社会に開かれた教育課程の実現が求められる中で、学校と地域の連携・協働体制を構築するコミュニティ・スクールは大きな役割を持っています。学校・家庭・地域の三者が連携しながら、学校教育目標の実現に向けて持続可能な地域学校協働活動を推進していくことが重要です。

<sup>77</sup> こどもルーム：柏市における学童保育（放課後児童クラブ）のこと。小学生を対象とした放課後の保育サービスであり、保護者が働いている間、子どもたちが安全に過ごせる場所を提供することを目的としている

<sup>78</sup> 地域学校協働活動：幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

## 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性 //

- 「地域の支援」から「地域との連携・協働」へ
- 個別の活動の総合化・ネットワーク化
- 地域と学校のコーディネート機能の充実
- 社会に開かれた教育課程、地域とともにある学校の実現

## 取組 //

16-1	地域学校協働活動の推進・支援	学校教育課	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会における熟議や、地域学校協働活動推進員の配置による学校と地域のコーディネートを通じて、保護者や地域住民等が参画する地域学校協働活動を推進します。</li> <li>・地域学校協働活動推進員養成講座を実施することで、地域学校協働活動推進員の全校配置を目指します。</li> </ul> <p>また、先進的な取組を行っている地域学校協働活動の視察研修等の実施により、推進員を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔遊び等の授業支援や、キャリア教育における事業所の発掘など、教育課程において地域に根ざした地域学校協働活動を推進します。</li> </ul>			
指標		基準値	目標値
地域学校協働活動推進員を委嘱している学校数 （*学校運営協議会の市内小中学校への全校設置が完了した令和5年度を基準とします）		小：15校 中：7校	小：42校 中：21校



写真11 地域学校協働活動の様子

## 施策17 子どもの居場所づくり

### 現状と課題

核家族化や共働き世帯の増加など、社会情勢の変化等に伴って、保護者が昼間家庭にいない子どもが増加しつつあります。また、夏休み等の長期休暇においても、子どもが安心・安全に過ごすことができる居場所の確保も重要な課題となっています。

保護者の就労支援を目的とした「こどもルーム」と、多様な体験を通じて子どもの健やかな育ちを支える「放課後子ども教室<sup>79</sup>」を一体的に運営する「アフタースクール事業<sup>80</sup>」を推進し、子どもが放課後等に安全・安心に自分らしく過ごせる居場所づくりを進めていくことが求められています。


また、保護者の就労支援をさらに進めていく上で、保育園等の登園時間と小学校の登校時間の違いにより、保護者の働き方や児童の朝の過ごし方に影響が生じる、いわゆる「小1の壁」問題を解決するため、子どもの「朝の居場所づくり」を推進していくことも重要です。

将来的に、子どもたち自身がそれぞれの発達段階に合わせて、自らが主体的に自分たちの居場所づくりに携われるような仕組みを考えるなど、子どもたちがチャレンジできる環境づくりも必要となっています。

### 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 放課後子ども教室【居場所型】とこどもルームの一体型運営の整備
- 放課後子ども教室【補充学習型／体験型】や夏休み子ども教室の継続  
→将来的にアフタースクール事業へ集約

### 取組

17-1	アフタースクール事業の推進 	アフタースクール課	
<p>全ての児童が安全安心に過ごせる放課後の居場所を提供するために、こどもルームと放課後子ども教室を一体的に運営する体制を市内小学校全校で実施できるよう、段階的に整備します（p. 85 参照）。</p>			
	指標	基準値	目標値
	アフタースクール事業実施校数	0校	42校

<sup>79</sup> 放課後子ども教室：小学校の特別教室等を活用し、放課後や夏休みに、地域住民の参画を得ながら、学習や様々な体験型講座等の取組を実施する事業

<sup>80</sup> アフタースクール事業：柏市において実施されている「こどもルーム（学童保育）」と「放課後子ども教室」を一体的に実施する事業のこと。小学校において、放課後等に多種多様な体験活動や生活の場を提供することで、希望する全ての児童が安全で安心して自分らしく過ごすことができる放課後等の居場所の充実を図り、児童の健全な育成を支援することを目的としている

17-2	朝の児童の居場所づくり 	アフタースクール課
------	---	-----------

児童が始業前の時間を安全・安心に過ごすことができるよう「朝の居場所づくり」に向けた検討を早急に進めます。

指標	基準値	目標値
「朝の児童の居場所づくり事業」の実施校数	0校	21校

17-3	夏休み子ども教室の充実	生涯学習課
------	-------------	-------

・子どもたちの知的好奇心の向上を目的として、夏休み期間中に公共施設等を活用した講座を実施し、主体的な学びや体験の場の充実を図ります。

指標	基準値	目標値
夏休み子ども教室の参加児童数	1,152人	年1,300人



写真12 アフタースクールの活動の様子

## 施策18 家庭への支援


### 現状と課題

共働き家庭やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変化する中、子育てに不安を持つ保護者も多くなっているといわれています。行政と地域全体で子育て家庭を支え、全ての児童生徒が適切な教育を受けることができるよう支援することが重要です。

また、子どもたちが放課後等に安全・安心に過ごせる居場所づくりを進めることを通じて、保護者の就労継続を支援していくことも求められています。

併せて、保護者への支援や子育てに関する情報提供を行うことで、家庭での教育を充実させていくことも重要です。

## 取組

18-1	就学援助 <sup>81</sup> 費の支給	学校教育課	
支援が必要な方に届くように、就学援助制度の周知に努めるとともに、支給事務を正確かつ迅速に行います。			
	指標	基準値	目標値
	就学援助制度の周知回数	13回	年13回
18-2	制服のリユース	学校教育課	
就学援助支給世帯を対象とした制服リユース事業（柏市制服バンク）を実施します（p.85参照）			
	指標	基準値	目標値
	柏市制服バンクの登録者数	219件	250件
18-3	みんなの子育て広場の充実	生涯学習課	
家庭教育支援を目的に、保護者同士の子育て情報の共有や交流・学びの場として「みんなの子育て広場 <sup>82</sup> 」を開催し、保護者が参加しやすい環境づくりや企画内容の充実に取り組みます。			
	指標	基準値	目標値
	みんなの子育て広場の実施回数	137回	年170回
17-2	（再掲）朝の児童の居場所づくり 	アフタースクール課	
児童が始業前の時間を安全・安心に過ごすことができるよう「朝の居場所づくり」に向けた検討を早急に進めます。			
	指標	基準値	目標値
	「朝の児童の居場所づくり事業」の実施校数	0校	21校

<sup>81</sup> 就学援助：経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者に就学費用の一部を支給するもの

<sup>82</sup> みんなの子育て広場：子育て中の保護者が情報交換を通じて、仲間づくりや不安・悩みの解消ができるよう開催される話し合いの場や、命の大切さや情報モラル、子育て等に関する講演会を通じた学びの場。学校における各種説明会や授業公開等の様々な機会を利用して開催されている

## 施策19 防災体制の整備

### 現状と課題

児童生徒が安心・安全に学校生活を送るに当たっては、災害等の緊急事態への対応は必要不可欠です。いざという時のための防災体制を整備するほか、日頃から防災についての教育を行い、災害時にあっても混乱することなく安全を確保できるよう環境を整備していくことが求められます。

また、柏中学校区の義務教育学校においては、駅周辺の多様な機能が集約した地区に立地する学校であることから、災害時の避難所機能の強化を図る観点など、地域の防災力向上と強靱な都市構造の形成に資する視点も踏まえた学校整備を推進します。

### 取組

19-1	学校における防災体制の強化	児童生徒課	
<p>災害時等における各校の児童生徒引渡しマニュアルに基づく体制が構築できていない学校、教職員の役割を事前に定めていない学校、役割に応じた避難訓練ができていない学校等について、必要な取組の実施を個別に促し、防災体制の向上を図ります。</p>			
	指標	基準値	目標値
	事前に定めた役割に応じた訓練を実施している学校数	49校	63校
19-2	地域と連携した訓練等の実施	児童生徒課	
<p>地域と連携した訓練や、市の防災部局と連携した講座や好事例の紹介等により、防災体制を強化します。</p>			
	指標	基準値	目標値
	地域と連携した訓練又は災害対策を実施している学校数	46校	63校

